

意見交換会概要

日時	平成25年 5月 27日 (月) 19 : 30 ~ 21 : 00
場所	気高町総合支所 (浜村地区座談会)
参加者数	約45人
出席者	校区審議室 (神谷、小谷、清水)、山田支所長、安藤副支所長、茅山課長補佐ほか

発言者	主な意見、質問等
参加者 A	小学校を統合するとなると、スクールバスを走らせてもらえるのか。統合となると通学のことには考慮しなければいけない。子供の安全にもかかわってくる。遠距離から出てくるとなると、通学方法等は問題となることは確実。
参加者 B	来年3月に結論を出すというなら、我々に対し4月には何らかの報告があることと思う。例えば統合問題の結論がでてから新築なり耐震改修なりを具体化するまでの期間はどれくらいのものか。自分の子供は現在5年生だから、この話に関係してくるならば中学校の案件が当事者となる。どういった進め方になるのか。
参加者 C	今の中学校を耐震補強しても、延命するだけ問題解決とならないのでは。また問題が発生するのも時間の問題ではないか。
参加者 D	浜村小学校、気高中学校は当面存続すると聞いて我々は安心した。逢坂、瑞穂の児童数減少は深刻のようだ。今後、少子化も進むであろうから逢坂は高江に団地を造成するとか、瑞穂は高浜団地は人口も増えているらしいが、過疎化を食い止める何らかの対策が必要になってくる。とにかく、浜村小学校、気高中学校が存続すると聞いて安心している。
参加者 E	浜村の関係する小中学校は人数が多く、受入れ側であるため、なかなか意見は出ないんだと思う。中学生の10年間の推移を見ても、統合すべきだと思う。それには鹿野、青谷を説得すべき。話によると青谷の地域審議会は既に統合反対という立場を打ち出しているらしいが、それは生徒のことを思っただけの決断ならいいが、大人の都合による反対となっている。子供のことをまず考えるべきと思う。
参加者 F	統合問題は自分の孫の世代の話ではあるが、いずれの地域も「学校があって当たり前」という考えだろう。テレビで4年ぶりに1年生が入学した学校のニュースを聞いた。これを聞くと、教育とはどうあるべきかという姿を、教育委員会がまず示さないといけない。教育論が聞きたい。これらを含めて教育委員会が方針を示していかないと親は納得しない。地域も納得しない。
参加者 G	中学校に通っている子供がいる保護者である。個人的な意見として小学校が1つになるとメンバーが固定する。小学校と中学校が同じ環境というのは、書いてあるように人間関係のリセットがきかず、やり直しもできない。子供も中学校の入学を契機に新たに頑張ろうとか、新たな友達と関係を築こうとか、これまでの再スタートを希望することもある。人間関係を固定され年齢を重ねていくのはかわいそうなこと。そういう部分を大事にしてほしい。

意見交換会概要

発言者	主な意見、質問等
参加者 H	今、一番早急にしないといけないのは統合なのか、耐震補強なのか、どちらなのか。問題があるから今回の意見交換になっているのだろう。今年度中には結論を出したいというものの集約が長引き、そのままズルズルと流されていく可能性もある。耐震補強と統合問題は平行に協議すべきことか。
参加者 I	保護者会等で意見交換しないとダメだ。今日の座談会には保護者の参加はほとんどない。当事者である保護者が出ていない会合で学校のことを考えるのではなく、改めて保護者に意見を聞く方がよい。ちなみに保護者はどういう意見なのか。
参加者 J	逢坂の保護者は統合に賛成と思っているとのことだが、どういう気持ちで言っているのだろう。統合も仕方ないと思っているならば、保護者の気持ちは本当に切実な思いなのだろう。
参加者 K	H25年末に意見を集約するとのことだが、結論を先送りしてほしいという意見は出ていないか。統計ではH29年までの児童数予測が出ているが、あせらずに時間をかけて検討するため期間を延ばしてほしい。施設の耐震強度が大丈夫なら、小学校についてあせることもないのでは。中学校が耐震的に問題があるなら、まず危険な校舎を直すべき。
参加者 H	気高も小中一貫校という道はないのか。その方がいいのではと思っている。小学校、中学校も耐震強度に問題があるというなら、いっそのこと新たな校舎で小中一貫校を目指すという選択肢もあると思う。